

ロシア 東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2004年(平成16年)7月5日号 No.1299

目次

● ユコス事件の周辺	坂口 泉 1
- ロシアの石油最大手はどこへ行くのか -	
● エトセトラ	11
シベリア・ウラル訪問団報告会と懇親会のご案内 / 11	
日本企業との取引を希望するハバロフスク企業のリスト / 11	
キルギスタン・ビジネスセミナー概要 / 11	
● ロシア東欧貿易会関連の行事予定	12
● CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	12

ユコス事件の周辺 - ロシアの石油最大手はどこへ行くのか -

はじめに

昨年夏から秋にかけてユコスの大株主であるプラトン・レベジェフとミハイル・ホドルコフスキーが逮捕されたことに端を発するユコス事件は、その後、政権サイドが次々とユコス・サイドに対し攻撃をしかけるという形で進展し、ユコスへの狭義の破産措置(清算、資産の競売)の適用、あるいは、国家によるユコスの資産の没収の可能性が懸念される状況が生じている。

破産措置の適用が回避される可能性も残っているが、仮に破産を免れても、ユコスが今後財政的に厳しい状況に置かれるのは確実で、同社の投資戦略に支障が生じるのは避けられないであろう。より具体的に言えば、当座の生産を維持できる可能性は残っているが、投資案件に関しては当面は資金調達の目処が立たず凍結されることになるであろう。

本稿では、レベジェフとホドルコフスキー逮捕後のユコス事件の推移、ユコスが置かれている状況、今後、考えられうる事態進展のシナリオ等について考察したい。